

平成21年度 大阪市立天王寺中学校

内部評価書

内部評価書の記号について

達成状況の A, B+, B-, C+, C-, D について

教育指導計画の取組内容（指標）の各項目について、事前に教職員が

A : 十分に達成できている(4点)	B : おおむね達成できている(3点)
C : どちらかという達成できていない(2点)	D : ほとんど達成できていない(1点)

の4段階で判定をしました。

その得点を集計し、平均点を求め、その平均点によって

右のように6段階にわけたものが、

達成状況の各項目の A ~ D になります。

次に各担当が、その A ~ D の判定を参考にして

全体的な達成状況（右側の A ~ D）をつけました。

A	= (3.250 ~ 4.000)
B +	= (2.875 ~ 3.249)
B -	= (2.500 ~ 2.874)
C +	= (2.125 ~ 2.499)
C -	= (1.750 ~ 2.124)
D	= (1.000 ~ 1.749)

評価の表の A + B , C + D , E について

- ・学校診断アンケートを、生徒・保護者・教職員に回答してもらう

A : よく当てはまる	B : だいたい当てはまる	C : あまり当てはまらない
D : 全く当てはまらない	E : わからない	

その A + B が肯定的なご意見、 C + D が否定的なご意見と考え、それぞれの割合（%）を数値で表した。

評価の表の「評価」について

- ・左側の ㉠ ~ ㉣ は A + B の値によって
右のように ㉠ ~ ㉣ の4段階に分類した
ものを記入してあります。
- ・左側の ㉠ ~ ㉣ をもとに、右側の
総合的な ㉠ ~ ㉣ を記入しています。

80%以上	: ㉠評価
60%以上	: ㉡評価
40%以上	: ㉢評価
40%未満	: ㉣評価

平成21年度 大阪市立天王寺中学校 内部評価書（項目別）

大阪市立天王寺中学校長 豊岡 修

1 学校運営

目 標	取 組 内 容（指標）	達成状況	
「豊かな心」と「学習意欲」を育み、基本的な生活習慣を身につけさせ、たくましさ自立心を養う	校内研修を充実させ、指導法の改善や指導力の向上に努め、「確かな学力」の育成を図る。	A	A
	基本的な生活習慣や心身の健康を基盤に、学校行事や奉仕活動、体験活動を通して「思いやる心」や「感動する心」「感謝する心」を育てる。	A	
	国際交流活動を通して国際理解教育を推進し、互いの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団を育てる。	B+	
	家庭との連携を通して子ども達の理解を深めるとともに、地域との連携を通して学習環境を整え、一人一人を大切に教育を推進する。	A	

評価

項目	取組内容（評価基準）	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善方法	外部評価
	学校での生活は楽しい	生 徒	84.5	12.4	3.0	Ⓐ		
	子どもは学校生活が楽しいと言っている	保護者	76.3	21.7	2.0	Ⓑ		
	学校の教育目標は、生徒の実態や当面する教育課題に即応している	教職員	96.2	3.8	0.0	Ⓐ		
	校長先生の話は分かりやすい	生 徒	61.2	30.6	8.2	Ⓑ	・情報発信についての点検活動	
	学校は、教育目標や教育方針を分かりやすく伝えている	保護者	61.6	27.3	11.0	Ⓑ		
	校長は、教育目標や教育方針を教職員に分かりやすく伝えている	教職員	100	0.0	0.0	Ⓐ		
	学年集会や学級会での話は分かりやすい	生 徒	76.1	19.0	4.8	Ⓑ	・情報発信についての点検活動	
	学年・学級は、目標や方針を分かりやすく伝えている	保護者	66.0	25.1	8.9	Ⓑ		
	学年や学級の目標や方針を、生徒・保護者に分かりやすく伝えている	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		
	予習・復習・テスト前に何を勉強するのが分かっている	生 徒	63.8	32.4	3.8	Ⓑ	Ⓐ	
	学校は年間指導時数の確保に努力している	保護者	86.7	5.6	7.7	Ⓐ		
	年間指導計画に基づいて授業を進めている	教職員	100	0.0	0.0	Ⓐ		
	学年通信は役立っている	生 徒	92.3	5.3	2.4	Ⓐ	Ⓐ	
	学校が保護者に出す文書・事務連絡は適切である	保護者	93.3	5.0	1.8	Ⓐ		
	保護者への情報発信に努めている	教職員	100	0.0	0.0	Ⓐ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研究を充実させることができた 行事を通じて「感動する心」を育てることについて、一定の成果が得られた
次年度の改善点	学校教育目標等についての情報発信の手段や内容の点検が必要である。

2 教科指導

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る	基礎・基本の定着、学力の向上を旨とし、指導法の工夫を図る	A	A
	学習意欲を喚起するための学習材の開発に努める	A	
	支援体制の充実を図り、主体的に学習に取り組める工夫を図る	A	
	夏休みを利用したの補充学習の充実に努める	A	

評価

項目	取組内容(評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	授業内容や進度は自分に合っている	生 徒	67.9	20.1	12.0	Ⓑ	・習熟度別指導の充実	
	学校の授業内容や進度が子どもの力にあっている	保護者	59.5	27.7	12.8	Ⓒ		
	生徒の実態を把握し、授業に生かすように努めている	教職員	100	0.0	0.0	Ⓐ		
	少人数授業は分かりやすい	生 徒	72.1	18.5	9.4	Ⓑ	・個に応じた指導の更なる工夫	
	学校は、生徒一人一人の個性や能力に応じた指導を工夫している	保護者	45.5	39.6	15.0	Ⓒ		
	少人数指導や習熟度別指導を取り入れるよう努めている	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		
	先生は授業内容や教え方を工夫している	生 徒	73.7	16.7	9.6	Ⓑ	・授業研究の充実	
	学校は、生徒が進んで学習するように授業を工夫している	保護者	43.7	37.8	18.6	Ⓒ		
	実験・実習、製作、表現等、多様な授業形態を取り入れている	教職員	96.2	3.8	0.0	Ⓐ		
	日々の宿題や、夏休み・冬休みの宿題は自分に合っている	生 徒	57.4	31.6	10.9	Ⓒ	・個に応じた指導の更なる工夫	
	日々の宿題や夏休み・冬休みの宿題は、内容・量的に適切である	保護者	63.5	31.2	5.3	Ⓑ		
	家庭学習の課題を適切に与えている	教職員	88.0	12.0	0.0	Ⓐ		
	先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる	生 徒	54.0	22.5	23.5	Ⓒ	・評価についての研究	
	学校は、子どもの能力や努力を適切・公平に評価している	保護者	69.0	21.7	9.3	Ⓑ		
	適切な評価基準を設定し、評価のあり方の工夫改善に努めている	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		
	通知表の評定は、学習の励みになっている	生 徒	56.9	29.0	14.1	Ⓒ	・評価についての研究	
	通知表の評定は、子どもの学力や達成度を適切に評価している	保護者	78.9	14.6	6.4	Ⓑ		
	評定について、生徒や保護者に説明している	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	少人数授業やT・T、習熟度別指導の導入、夏季休業中の補充学習の実施など、支援面での充実を図り、「確かな学力」の育成に努めた。
次年度の改善点	支援体制の充実、学習材の開発など、興味・関心を喚起し、自ら進んで学習に取り組むことができるための工夫を図る必要がある。

3 生徒指導・教育相談

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
・基本的な生活習慣を身につけさせ、集団の一員としての自覚を持ち、規律ある行動ができるようにする ・集団の和を大切にす豊かな心を育てる	望ましい生活集団の確立のため、生徒一人ひとりの生活実態を把握し、計画的・継続的な指導に努める	A	A
	生徒一人ひとりが集団の一員としての自覚を持ち、信頼によって結ばれた人間関係を育て、充実した学校生活を営ませる	A	
	リーダーの育成に努める	B +	

評価

項目	取組内容(評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	学校は、礼儀や道徳、マナーの大切さを教えてくれる	生 徒	79.3	15.4	5.3	Ⓑ	Ⓑ ・保護者との連携	
	学校の生徒指導方針に共感できる	保護者	75.1	18.0	6.9	Ⓑ		
	生活指導について、家庭と連携できている	教職員	96.2	3.8	0.0	Ⓐ		
	学校は困ったことや心配事の相談に気軽に応じてくれる	生 徒	50.9	26.4	22.7	Ⓒ	Ⓒ ・気軽に相談できる環境作りに努める	
	学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる	保護者	79.3	12.2	8.5	Ⓑ		
	生徒が気軽に相談できる環境になっている	教職員	69.2	30.8	0.0	Ⓒ		
	学校は間違った行動を厳しく指導してくれる	生 徒	84.0	12.0	4.0	Ⓐ	Ⓐ	
	学校は子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる	保護者	82.6	11.3	6.1	Ⓐ		
	生徒の問題行動に、組織的に対応している	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	生 徒	66.1	19.5	14.4	Ⓑ	Ⓑ ・日常的な生徒との関わりを深める	
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	保護者	75.1	11.1	13.8	Ⓑ		
	いじめの早期発見や体罰の防止に努めている	教職員	96.2	3.8	0.0	Ⓐ		
	三者懇談は自分の成長に役立っている	生 徒	56.0	26.8	17.2	Ⓒ	Ⓑ	
	個人懇談や進路懇談は、子どもの成長や学校生活を知るのに役立っている	保護者	81.4	16.0	2.6	Ⓐ		
	資料等を整えて三者懇談の充実に取り組んでいる	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		
	学校のことについて、保護者によく話をする	生 徒	63.5	30.7	5.9	Ⓑ	Ⓑ ・学年通信等の有効活用	
	学校のことについて、子どもからよく話を聞く	保護者	70.6	27.4	2.1	Ⓑ		
	生徒とともに過ごす時間を設けるよう努めている	教職員	80.8	19.2	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	・生徒一人ひとりに対し、計画的・継続的な指導を行うなかで、正しい人間関係を基にした、充実した学校生活ができるようになっている ・リーダーの育成が十分にできていない
次年度の改善点	信頼されるリーダーの育成に努めながら、協力し助け合える集団を目指し、よりよい信頼関係によって結ばれた人間関係を育てる。

4 進路指導

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
3年間の中学校生活を通して、自己を見つめ、自分自身の生き方を考えて、主体的に進路選択をおこなっていく。	1年：自己について、社会の中での生き方について考える		
	2年：「働くこと」の意義を考え、自分の生き方について考える		
	3年：自分自身を考え、社会の中で自己を生かす進路選択をおこなう		

評価

項目	取組内容（評価基準）	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	授業や学級会で、将来の進路や職業などについて考えたことがある	生 徒	47.2	39.6	13.2	◎	◎ ・年間計画の点検と情報発信	
	学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている	保護者	55.7	24.0	20.2	◎		
	計画的に進路指導に取り組んでいる	教職員	88.5	7.7	3.8	◎		
	学校は、将来の進路や職業などについて必要な情報を与えてくれる	生 徒	45.7	30.7	23.5	◎	◎ ・情報提供についての点検	
	学校は進路に関して、保護者への連絡や懇談など、適切な情報提供を行っている	保護者	65.3	20.4	14.3	◎		
	生徒保護者に、進路に関する適切な情報が提供できる環境になっている	教職員	96.2	3.8	0.0	◎		
	将来の進路や職業などについて先生と相談している	生 徒	10.9	72.5	16.6	◎	◎ ・教育相談の充実	
	生徒の個性や能力に応じた進路指導がなされている	保護者	51.5	26.0	22.5	◎		
	進路に関する生徒・保護者の願いを把握するよう努めている	教職員	88.5	7.7	3.8	◎		

A：よく当てはまる B：だいたい当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない E：わからない

まとめ

結果と分析	・3年間を通して、計画的に進路学習を実施しているため、学年によっては全く何も学習していないと生徒が感じていることがある
次年度の改善点	情報発信面で点検すべき点があるため、今後取り組む必要がある。

5 特別活動

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
自主的に活動でき、さらに協力しながら規律ある行動ができる集団の育成に努める。	学年行事、学級活動に全員で取り組み、共に支えあうような学級集団の育成に努める	A	A
	部活動に生徒が主体的に活動できるよう推進める	A	
	生徒会活動・委員会活動を活発にし、生徒の自主性を育て、生徒会組織と学級との連携を密にする	A	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	体育大会、文化発表会、宿泊行事などの学校行事は楽しい	生 徒	82.1	14.9	2.9	Ⓐ	Ⓐ	
	子どもは、体育大会や文化発表会、宿泊行事などの学校行事に積極的に参加している	保護者	90.7	8.7	0.6	Ⓐ		
	学校行事の中で、生徒に成就感を持たせるように努めている	教職員	100	0.0	0.0	Ⓐ		
	学校行事の種類や回数、内容は適切である	生 徒	63.6	24.1	12.3	Ⓑ	Ⓑ	・生徒からの聞き取り
	学校行事の種類や回数、内容は適切である	保護者	86.9	8.4	4.7	Ⓐ		
	行事終了後の評価・反省が次回に生かされている	教職員	96.2	3.8	0.0	Ⓐ		
	部活動や委員会活動は楽しい	生 徒	72.3	17.3	10.4	Ⓑ	Ⓑ	・部活動と委員会活動を分けて質問する
	子どもは、部活動や委員会活動で生き生きと活動している	保護者	75.7	18.8	5.6	Ⓑ		
	部活動や委員会活動で、生徒の自主性を伸ばすように努めている	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等では、各学年で特色を出し、事前の取組が活発に行われた。教師の指導のもとで、生徒が積極的に活躍する場面が少しでも多くとれるよう努めた。 ・部活動では各顧問の指導のもと、各部長をリーダーとして自主的な活動ができるよう努めていたが、まだ不十分である。 ・生徒議会における議会運営を活性化するために、反省会などを持ち、リーダーの育成に努めた。
次年度の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に活動できるリーダーの育成に努める必要がある ・他人の痛みやしんどさをわかり合える集団作りを、さらに進めていく必要がある

6 道徳

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
人間尊重の自覚を高め、思いやりの心が深く主体的に行動できる生徒の育成に努める	道徳の時間と各教科・特別活動・総合的な学習の時間及びその他の活動との関連を図り、生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実をめざす	A	B +
	より効果的で多様な指導法、指導内容、教材資料についての研究を進める	A	

評価

項目	取組内容(評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	相手を思いやる心や、強い意志を持てるよう努力している	生 徒	66.0	21.8	12.2	Ⓑ	・教材・指導内容等、研究の深化・充実	
	いろいろな考え方があり、互いに尊重できるようになりたい	生 徒	72.9	18.8	8.2	Ⓑ		
	生徒が共感できる教材の開発・収集を進めている	教職員	88.5	11.5	0.0	Ⓐ		
	学年ごとの年間指導計画に基づいて指導内容を検討・工夫している	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会、学年集会での先生方の講話や、日々の生活指導、行事での感動体験を通して、多くの機会に生徒の内面を育てる指導がなされていた ・道徳の教科書や指導書が整備され、生徒の実態に応じた教材を考えやすくなった ・道徳の授業時間を恒常的に確保することができていない
次年度の改善点	自己中心的な言動を繰り返し、他人の気持ちを考える想像力の弱い生徒に対し、道徳の規範意識を芽生えさせるとりくみと、厳しい日々の生活指導とを連携させて継続していく必要がある。

7 総合的な学習

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
「確かな学力」を身につけさせ、社会の変化に対応できる力を育む	自ら課題を見つけ、学び、考え、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	B +	B +

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	課題意識を持って学び、考えることができた	生徒	63.6	26.3	10.1	Ⓑ		
	学年に応じた内容を計画的に進め、工夫している	教職員	92.3	7.7	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は 1学期は読み取り学習、2学期より講座別学習として、8つの講座を設け、授業や調べ学習を行った。パソコン学習では、1学期は基礎、2学期では基礎の定着を図る学習をした。 ・ 2年生は 1学期は職場体験を実施した。2学期からは「地域学習 - 大阪」について各自がテーマを設定し、レポートを作成し、まとめと発表を行った。 ・ 3年生は、卒業研究として、各自が設定したテーマに沿って資料を収集し、研究の概略と今後の課題を中間発表した。その後、最終的に各自がまとめ冊子を作成した。 												
次年度の改善点	<p>新学習指導要領の総合的な学習の時間</p> <p style="text-align: center;">(平成21年度～23年度) (平成24年度以降)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 30%;">1年 70～100</td> <td style="width: 30%;">50～65</td> <td style="width: 30%;">50</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2年 70～105</td> <td>70～105</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3年 70～130</td> <td>70～130</td> <td>70</td> </tr> </table> <p>の改訂から、今後の各学年の学習内容について考えていかなければならない。</p>		1年 70～100	50～65	50		2年 70～105	70～105	70		3年 70～130	70～130	70
	1年 70～100	50～65	50										
	2年 70～105	70～105	70										
	3年 70～130	70～130	70										

8 健康教育

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
基本的な生活習慣の確立と心身の健康の保持増進につとめる	健康に対する意識を高め、自律的な生活態度を養う	A	A
	環境に対する意識を高め、自らすすんで整備美化する態度を養う	B +	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	健康に対する意識を持ち、日常生活を送っている	生 徒	73.5	22.5	4.0	Ⓑ	Ⓑ ・情報発信の工夫	
	学校は、心身の健康に関する教育に、しっかりと取り組んでいる	保護者	71.9	15.1	13.0	Ⓑ		
	健康に対する意識を持てるよう、毎日の生活の中で機会をとらえ、指導している	教職員	96.2	3.8	0.0	Ⓐ		
	環境に対する意識を持ち、日常生活を送っている	生 徒	70.7	23.7	5.6	Ⓑ	Ⓑ ・情報発信の工夫	
	学校は、環境の安全や美化に関する教育に、しっかりと取り組んでいる	保護者	80.6	6.8	12.7	Ⓐ		
	環境に対する意識を持てるよう、毎日の生活の中で機会をとらえ、指導している	教職員	88.5	11.5	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな機会を通して、生徒の心身の健康状態の把握をしながら保護者及び地域との連携をはかり、適切な助言や指導を行った ・班別清掃や全校一斉の全員清掃などの活動を通して、環境の美化をはかった ・いずれも、まだまだ不十分であり、高めていく必要がある
次年度の改善点	ひとりひとりが健康な生活や環境の状態を意識し、自ら望ましい生活を実践するには、多方面と協力しながら指導を継続していかなければならない。

9 特別支援教育

目 標	取 組 内 容 (指 標)	達成状況	
障害のある子どもたちが、まわりの子どもたちと共に学び、共に生活することを通じての地域社会で自立を目ざす教育を推進する	特別なニーズのある生徒の自己決定権を尊重し、個々の状況に応じて、自立に必要な基礎的能力を養うため個別的指導を実施する	A	A
	統合教育を推進し、障害のある生徒についての通常の学級での指導の充実に努める	A	
	人権教育としての「障害理解教育」を推進すると共に種々の行事や学級活動を通じてインクルーシブな集団の育成に努める	A	
	個々の障害の状況に応じて必要なソーシャル・スキルの獲得に努める	A	
	自立活動の指導の充実に努め、個々の課題に対する指導を計画的に実施する	A	

評価

項目	取組内容 (評価基準)	対 象	A+B	C+D	E	評価	改善	外部評価
	支援が必要な人たちのことについて、学校で学んで良かったと思いますか	生 徒	61.2	15.2	23.6	Ⓑ	Ⓑ ・継続的に指導を続ける	
	学校では子どもに対し、障害を理解させるような取り組みを行っている	教職員	84.0	16.0	0.0	Ⓐ		
	様々な障害について学ぶことは、これからの自分に役立つことだと思いますか	生 徒	64.2	14.6	21.1	Ⓑ	Ⓑ ・継続的に指導を続ける	
	支援が必要な生徒のニーズに応じる教育を行っている	教職員	96.0	4.0	0.0	Ⓐ		

A : よく当てはまる B : だいたい当てはまる C : あまり当てはまらない D : 全く当てはまらない E : わからない

まとめ

結果と分析	<p>今年度、指導の内容を点検し生徒個人の状況に応じた教材を整備した。また、5階支援教室を教科学習専用として3年生の入試対策に活用した。さらに、1・2年生については放課後、2階支援教室を活用して補習を実施した。保健体育、技術家庭、音楽を中心に支援担当教員による入り込みを強化した。</p> <p>1年人権教育において当事者である卒業生酒井健二さんをお招きして人権講話を実施した。</p> <p>また、各学級で障がいのある仲間についての理解を求める取り組みを日常的に続けている。</p> <p>全市合同行事への参加を通じて公共交通機関の利用について学んだ。また、自立活動の指導を通じて買い物、会話の指導を進めた。</p> <p>自立活動の指導については個々の状況に応じて計画的に適切に進めた。</p>
次年度の改善点	<p>近年、障がい観が大きく変化している。自立活動の指導においては国際生活機能分類 (ICF) に基づいた新しい障がい定義に従いながら同時に、現実の個々の生徒のニーズにきめ細やかに対応するものを創造しなければならない。</p>